

2004年1月 No.436

京都の福祉

発行 京都府社会福祉協議会

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375

TEL 075-252-6291 FAX 075-252-6310

発行人 大槻 明司

http://www.kyoshakyo.or.jp

主な記事

- 1面…もえくさ
- 2面…新年の挨拶
- 4面…子育て支援の取り組み
- 6面…きばってます～市町村社協の活動紹介～
- 7面…ぷらっとホーム 荒木昭夫さん
「全ての人に演劇の素晴らしさを」
- 8面…はーとふる通信 ㊟
—福祉サービス利用援助事業事例レポート—



迎春

もえくさ

新年あけましておめでとうございます。

本年も、『京都の福祉』が京都の福祉の前進に少しでも寄与できるよう努力を重ねてまいりますので、どうぞよろしく願います。▼さて、昨年末の国家予算編成時には、生活保護制度・老齢加算の廃止や障害者支援費制度におけるグループホーム単価の大幅切り下げ案(その後白紙撤回)、また、現行一割の介護保険利用者負担を二〜三割に引き上げる財政制度等審議会の提言などが出され、社会保障・社会福祉に対する寒風が吹き荒れました。▼こうした政策動向を貫いている背景は、いうまでもなく危機的な財政問題であり、またそれを根拠にした「社会保障制度の持続可能性の確保」という方針です。確かに、カネには限りがあり制度の持続は大事なことです。事実、向う三十年間、毎年六十五万人増えつづけると推定されている高齢者の生活保障の柱である年金と医療費が、社会保障費用の八十五%を占めることを考えれば、支出をいかに抑え、国民負担をいかに増やすかが基調となるのは無理からぬことと思えます。▼しかし、国家財政や社会保障制度は、人々の生命や生活を守るためにこそ運用され、機能させるべきです。いま、豊かな社会ニッポンにおいて餓死事件があり、厳冬の中、全都道府県に及び五百八十一市町村に二万五千人を超える(国の調査結果)ホームレスがいます。年金給付の切り下げで「生活の持続」に及々としている高齢者がいます。▼他方、虐待による子殺し、未成年者による親殺し、非行・犯罪の低年齢化・凶悪化、ドメスティック・バイオレンスに苦しむ人々などに有効な施策が立ち遅れており、多くの国民が心を痛め、不安感が漂っています。▼こうした「不況と不安感」に立ち向かう私たちの目標は、「生活自立と安心感」の獲得です。昨年末に出された「世界人権宣言五十五周年京都アピール」が提唱した「人権文化」の豊かな創造と構築のために、社会保障・社会福祉が人々の生命と生活と笑顔をしっかり支えるつかいか棒となれることが重要です。

新しい年の始めに、お互いの使命を確かめ合いたい。

「京都府社協中期計画」

全面実践スタートの年

京都府社会福祉協議会 会長 片山 健三



にありますが、福祉を後退させることなく、府民の一人ひとりの人権が尊重され、安心して暮らせる地域福祉を構築していくことが重要であります。

そのためには、地域住民、ボランティア、民生委員・児童委員、社会福祉施設、社会福祉協議会、行政が

新年 あげましておめでとうございます。厳しい社会経済状況が続いておりますが、今年が府市民の皆さまにとりまして、希望の湧く明るい年になりますことを祈念いたします。

さて、ご承知のとおり昨年は、四月から障害者支援費制度が始まりました。また、平成十二年度からスタートしました介護保険制度の見直しや、入院医療中心から地域生活中心への転換を基本的な考え方とした精神障害者関係の三検討会の開始、生活保護制度のあり方の検討など、国においては、社会福祉の根幹にかかわる構造改革が一層進んできております。

特に、国庫補助金の削減、地方への税源移譲、地方交付税の見直しを一体的に進め

それぞれ責任と役割を果たし、これまでに以上に連携を強めながら、地域における住民・利用者のニーズに応える「新たな視点」と「持続的で地道な活動」を徹底して実践することが重要であります。本会では、昨年より社協組織のネットワーク性を生かした総合機能を発揮し、個人の尊厳とノーマライゼーション理念の息づく福祉社会の実現をめざした五年間の計画を「京都府社協中期計画」として策定委員の皆さまのご意見もいただきながら、精力的に検討しているところであります。今年はその中期計画を早期にとりまとめ、十六年度から全面実践をしていくスタートの年となります。

京都から「人・間中心」の社会に向けて

京都府知事 山田 啓二



心・安全づくり」を府政の柱として、二十一世紀の京都府づくりに邁進してまいりました。

今後さらに京都が二十一世紀に心豊かな社会となるためには、「もの」すなわち物質的な豊かさを追求するだけでなく、今一度「ひと」をしっかり見据えて、これからの京都府づくりに当たる必要があると思っております。

府民の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

長引く不況の中、依然として続く雇用不安など、私たちを取り巻く社会・経済の環境は厳しく、加えて、青少年犯罪の凶悪化、SARS事案や硫酸ピッチ等の産業廃棄物の不法投棄問題など、様々な不安要因が、私たちの生活や安全を脅かすつつあります。

こうした中、私どもは、府民の皆さまの生活の安心・安全の確保を府政の最優先に掲げ、全国に先駆け、「あんしん借換融資」を創設し、硫酸ピッチの規制条例を制定するなど、これまで様々な緊急対策を行ってまいりました。厳しい財政状況の下ではあります。私どもの最大の目的である「住民福祉の向上」を図るため、今年も全力を

幸い京都には、優れた人材や悠久の歴史・文化に裏打ちされた多くの資源があります。京都の「人」を大切に、失われつつある人と人のつながりをもう一度取り戻し、京都の持つ「力」を最大限に生かすことができます。京都の再生につながるものと固く信じています。

私は、これからの京都を担う「人」に投資し、人々の「活力」を高め、そして、人々がいきいきと交流できる基盤を整備することにより、「人がいき、産業が活き、自然が生きる「人・間中心」の京都を築く」、これをこれからの府政の大きなテーマに掲げたいと思っております。

私は、京都の持つ「力」を信じ、府民の

平成16年4月1日 京丹後市社会福祉協議会が誕生

丹後六町社会福祉協議会の合併協定調印式が挙行される



(写真) 左から峰山町社協・段野会長、大宮町社協・吉岡会長、網野町社協・牧会長、丹後町社協・下田会長、弥栄町社協・藤原会長、久美浜町社協・大森会長

る「三位一体改革」が打ち出され、国レベルのみならず地方自治体においても、行政改革がどんどん進行している状況であります。

また、市町村合併の動きも進められ、京都府内においては今年四月に新市「京丹后市」が誕生することとなります。

このような社会福祉の構造改革を含めた行財政の大きな転換期という厳しい状況下

本会といたしましても、関係者の皆さまと共に地域福祉推進の中核としてその責任と役割を一層果たすことができるよう、これまで以上の努力を重ねていく所存でございます。

本年も昨年同様、ご指導、ご協力の程、よろしくお願いいたしますとともに、新しい年の始めにあたり、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

十一月二十五日(火)、網野町において丹後六町社会福祉協議会の合併協定調印式が行われました。式では、最初に社協合併協議会祝前事務局長より経過報告が行われ、昨年十月八日の第一回協議会から本年十一月二十日の第七回協議会まで重ねられてきた協議結果である十七項目の協定内容が報告され、次いで、下田喜六・社協合併協議会会長(丹後町社協会長)の主催者挨拶を受けた後、合併協定書への調印(六町社協会長による署名・捺印)が行われました。

続いて、来賓の祝辞があり、京都府知事(代理・加瀬峰山地方振興局長)、六町合併協議会会長(濱岡六右衛門・網野町長)、京都府社協会長(代理・榎田匠副会長)から、それぞれお祝いと激励の言葉が述べられました。その後、立会人(六町社協副会長各二名)の署名、記念撮影、最後に牧正男・社協合併協議会副会長(網野町社協会長)が閉会挨拶を行い、式は滞りなく終了しました。平成十六年四月一日より、府内での初の合併社協となる京丹後市社会福祉協議会が誕生します。

あけて取り組みたいと思います。

また、明日の京都の発展のため、未来を担う子供たちのために、緊急対策と同時に、「新京都府総合計画」を基本としたアクションプラン等に基づき、複数の教師によるチームティーチングの本格導入、乳幼児医療助成制度の拡充、産学公連携機構の創設、緑の公共事業の推進など、「人づくり」、「活力づくり」、「安

皆さまの明日への思いを「人間中心」の京都府づくりの中で、実現してまいれる覚悟ではない」という決意で取り組みますので、皆さまの変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

新年にあたり、皆さまのご健勝、ご多幸を心からお祈りいたします。

全国社会福祉協議会

しせつの損害補償

社会福祉施設総合損害補償

福祉施設の公的保険における業務にも対応!

安全・健全な施設運営のために

プラン1
施設の業務中事故賠償補償
オプションにより、居宅サービスや医療リスクも補償

プラン2
滞在型施設利用者傷害事故補償

プラン3
通所型施設利用者傷害事故補償

プラン4
送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン5
施設の労災上乗せ補償
(オプション)感染症補償費用

プラン6
施設職員の傷害事故補償

プラン7
施設の什器・備品損害補償

すでに8,000を超える社会福祉施設にご加入いただき、多くの事故に役立っております。
この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

●お問い合わせ

取扱代理店 **福祉保険サービス**

ホームページも御覧下さい。http://www.fukushihoken.co.jp
〒100-0013 東京都千代田区豊が関3-3-2 新豊が関ビル TEL.03-3581-4667

山城地域における“当事者発”子育て支援の取り組み

近年、急速な少子化や核家族化の進行、地域を取り巻く環境の変化に伴って、子育て支援の必要性が認識され、民生児童委員協議会や保健所、保育所、社会福祉協議会など、さまざまな団体が子育て支援に取り組んでいます。なかでも、地域住民やボランティア、母親を中心とした子育て中の親自身による草の根的な活動として、子育てサロンやサークルの取り組みは急速に広がっており、京都府内においても、平成十五年一月現在で子育てサロン・サークル数は百三十四カ所に上りました(図参照)。子育て

◆ネットワーク活動の取り組み①

京都府宇治市で活動している「宇治子育てを楽しむ会」は、「宇治市で子育てをしようと思った思える市にしたい」という思いのもと、数名の子育てサークル役員が中心になり、一九九九年に発足しました。発足当初は、子育てに関する情報収集や、託児付き講座の開催等を行っていましたが、平成十四年度に、

子育て支援に関するニーズ把握を目的にアンケート調査を実施したところ、「母親たちが集まれる場が欲しい」「零歳から一歳までの子どもが参加できる場がない」という意見が多く出されました。母親たちのこうした声にこたえるため、宇治子育てを楽しむ会では、その後、さまざまな事業を展開しています。

〈主な取り組み〉

○赤ちゃんサロン…生後六ヶ月までの乳児を対象(月一回)

○赤ちゃん広場…七ヶ月から一歳までの乳児を対象(月一回)

○おしゃべりキャッチボール…子育てサークルの紹介、サークルの立上げ・運営相談、先輩ママの子育て相談など、気軽なおしゃべりの場

べりの場

○フレンドリーサポート事業…産前産後で家から出られない方を対象に、家庭へのサポート

○保育付き講座の開催

○ホームページや掲示板による情報発信・交流

◆ネットワーク活動の取り組み②

一方、京都市では一九九七年に京都市内の子育てサークルをつないだネットワーク組織「京都子育てネットワーク」が組織化され、活発な活動が展開されています。こうした活動を参考に、京都府南部の山城地域でも「身近に交流できるネットワークをつくらう」と発足したのが、「やましろ子育てネットワーク」です。このネットワークは、城陽市と井手町のサークルリーダー経験のある母親たちの呼びかけで発足したネットワーク組織で、山城地域に点在する約五十の子育てサークルをつなげ、各サークルが相互の経験を情報交換することによって、サークル活動を活性化させ、子育ての楽しさやつながりの大切さを

伝えていく活動を展開しています。また、地域・行政と子育て中の親とのパイプ役として、十三市町村の子育て支援担当窓口に、機関紙やサークル情報誌を届け、子育て中の親の悩みや要望を伝えたり、支援を呼びかけています。

〈主な取り組み〉

○子育てサークルへの支援…サークル情報誌の発行、サークルリーダー交流会の開催、遊びの講習会の開催

○機関紙「ほのぼのつうしん」の発行…子育て情報の収集と発信

○親子イベント「ほのぼのひろば」の開催

○地域や行政の子育て支援への働きかけと連携

もともと子育てサークルが各地で結成されてきた背景には、子育てが家庭の中で解決するものとされ、社会的な課題として捉えられていなかったことがあります。しかし、一方で、核家族化が進み、地域のつながりも希薄化する中で、子育てについて気軽に相談できる場がどんどん失われていきました。その中

で、子育て中の親が孤立し、育児に関するさまざまなことで悩むこととなり、児童虐待などの問題が社会的課題としてクローズアップされてきました。こういった背景の中で、子育て中の親同士が同じ立場で助け合う子育てサークルが次々と誕生していったのです。

しかし、サークルの多くは、子育て中の親世代が運営を担っており、会場の確保や運営スタッフの不足など、様々な課題を持ちながら活動しているのが実態です。ネットワーク活動は、そのような方に対して、相談や助言、経験の交流、情報提供といったことを通じて支援するものであり、子育てサロンやサークルが継続して活動していくための大きな原動力となっています。しかしながら、現状ではネットワーク活動についても、活動が広域にわたるために活動拠点の確保が難しかったり、関係機関の支援がなかなか得られない状況があります。ネットワーク活動は、サークル運営の支援だけでなく、子育て支援ニーズの掘り起こしや新しいサロン・サークルの誕生につなげたり、希薄化した地域のつながりを子育て世代から再生していく活動でもあります。

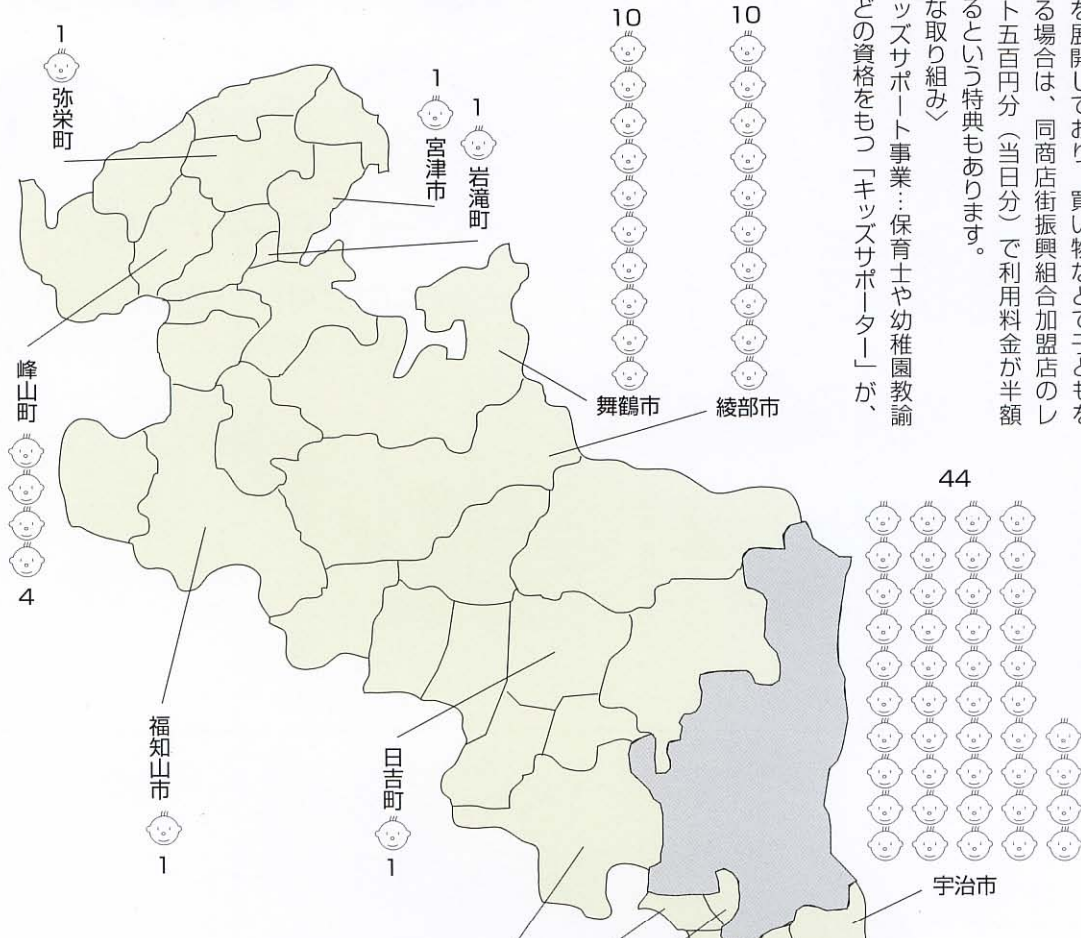
今後は、子育てサークルの活動に対する理解を広げるだけでなく、サークル同士をつなげるネットワーク活動についても、社協をはじめとする関係機関や地域住民が十分理解し、支援の輪を広げていくことが求められています。

◆NPOの協働による取り組み

また、最近、宇治市でNPOと商店街の協働によるユニークな取り組みが始まりました。京都府宇治市を中心に活動するNPO法人「働きたいおんなたちのネットワーク」では、宇治橋通り商店街の空き店舗を活用して「宇治橋通り親子広場『つむぎ』」を開設しています。ここでは、火・木・土曜日の週三日、

子育てサロン・サークルマップ

*市町村社協が把握している子育てサロン・サークル数
(平成十四年度「ふれあい・子育てサロン」調査研究事業より)



午前十一時から午後四時まで、一日五百円で親子の居場所を提供し、さまざまな企画を週替わりで行っています。子どもといっしょの市民が商店街で楽しく買物を楽しめるだけでなく、地域の交流拠点となることを目指して活動を展開しており、買い物などで子どもを預ける場合は、同商店街振興組合加盟店のシート五百円分(当日分)で利用料金が半額になるといふ特典もあります。

〈主な取り組み〉

- キッズサポート事業：保育士や幼稚園教諭などの資格をもつ「キッズサポーター」が、

- 活動場所に向き、出前保育を実施
- 子育てサポーターの養成・研修
- 子育てサークル他応援
- 地域の子育て関連情報の提供
- 商店街情報の発信

子育て支援と商店街振興という二つの機能をあわせ持つこの新しい取り組みは、先駆的な事例であり、近年の多様な子育て支援活動の中でも象徴的な動きであるといえます。過疎地においても、また都市部においても商店街が活気を失っていつていると言われる中で、地域住民のニーズに密着した商店街振興の取

り組み事例の一つとして注目すべきものであると思われる。

以上のような山城地域の取り組みは、各団体が相互に情報交換し、連携しながら活動を展開しています。これらの活動は、地域住民が活動の担い手として、また、参加者として関わっているという意味で、子育て支援という活動を通じた地域住民による福祉のまちづくり活動と言えます。児童虐待や引きこもり、非行など子どもをめぐる諸問題が大きく取り上げられる中で、地域における子育て(II子育て)の社会化)を改めて考える時期にきているのかもしれない。

本会では、昨年度に引き続き、本年度も子育てサロン調査研究事業に取り組んでおり、京都府内における子育て支援活動のさらなる普及・定着を目指しています。

勇気ある一歩を支える「安心」



ボランティア保険

わずかな保険料で、傷害部分(ボランティア自身のケガ)と、賠償責任部分(活動中他人の身体・財物に損害を与えたとき)が補償されます。

保険料一名につき

Aプラン 300円 Bプラン 500円

ボランティア・福祉活動等行事保険

福祉事業総合補償制度

まごころワイド

問合わせ・申込先

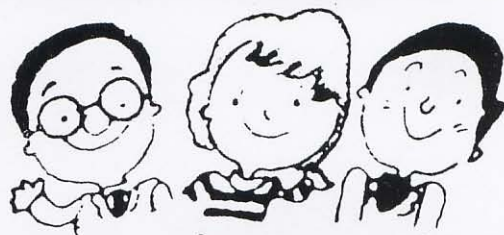
もあります

(福) 京都府社会福祉協議会

京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375

TEL 075-252-6295

きばってます!



～市町村社会福祉協議会の活動紹介～

〔会場〕

木津町中央交流会館

〔実施主体〕

木津町ボランティア連絡協議会

〔参加対象〕

相楽郡七町村の
ボランティア関係者

〔事業の目的〕

広く相楽郡七町村の交流をはかり、ボランティアに関し、一層の研鑽を深めるとともに、今後の活動に資する。

〔事業の概要〕

平成十三年にスタートし、二年に一度の実施で今年度が二回目。相楽郡のボランティア関係者に参加依頼をし、午前中に活動報告と活動発表（手話コーラス、マジックなど）を行ない、午後は分科会とし、交流を中心に他グループや他町村との情報交換を実施した。昼食とデザートは、ボランティア手作りのちらし寿司・ふるさと汁・ケーキとババロアの盛り合せとコーヒー。休憩中には、押し花のカード作りなど、各ブースでの体験もしていただき、有意義な時間をすごしてもらうことが出来た。



■木津町社協
第二回
きづボランティアまつり
〔実施日〕
平成十五年十二月六日（土）

情報ガイド

家族でボランティアフェスティバル

2004年3月13日(土) 13:00~16:30
ハートピア京都 (京都府立総合社会福祉会館)
3階大会議室 ほか ※京都府地下鉄(丸太町)下車5分出口すぐ **入場無料**

記念講演 13:30~14:45
家族の絆を深めよう
「家族でボランティア」してみませんか
(財)児童健全育成推進財団常務理事 鈴木 一光 氏

コンサート 15:00~16:20
**人間みんながって
みんないい感じられる世界を**
—みすゞのうたコンサート—
歌手 もりいさむ 氏

体験コーナー・展示コーナーなど
その他、みんなで楽しく体験できるコーナーや
投産製品の販売・展示コーナーもあります!!

【主催】社会福祉法人 京都府社会福祉協議会 【後援】京都府 京都市 京都市社会福祉協議会 京都新聞社会福祉事業団
お問合せ先 京都府社会福祉協議会 地域福祉・ボランティア振興課 〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入ル清水町375 ハートピア京都内 Tel:075-252-6295 / Fax:075-252-6311
URL: <http://www.kyoshakyo.or.jp/>

■ 防災とボランティアの日（1月17日）記念講演会

- 災害が起きたとき、私たちに何ができるのか—
- ◇主催；京都府社会福祉協議会
 - ◇対象；どなたでも参加できます
 - ◇日時；平成16年1月16日（金）13：30～15：30
 - ◇会場；キャンパスプラザ京都4階「第3会議室」
 - ◇参加費；無料
 - ◇内容；講演Ⅰ「災害に立ち向かうには一住民としてのわたしたちにできること—（仮題）」
同志社大学文学部社会学科 教授 立木茂雄氏
講演Ⅱ「災害発生時における京都府の取り組みについて（仮題）」
京都府総務部 防災監 栗田誠一郎氏
 - ◇申込み 問合わせ；地域福祉・ボランティア振興課
TEL. 075-252-6294

■ 母子家庭等就業準備セミナー

- ◇主催；母子家庭等自立支援センター
- ◇対象；京都府内在住の母子家庭（父子家庭）の方
- ◇参加費；無料（保育ルームあります）
- ◇内容；「現在の雇用状況」、「就労のための心構え」、「母子家庭の雇用について」、「実際の就職・転職に向けて」、「履歴書の書き方・面接の受け方」
- ◇日時；＜宇治会場＞ ゆめりあうじ（JR宇治駅前）
平成16年2月6日（金）10：00～12：00
＜福知山会場＞ 福知山市総合福祉会館
平成16年2月9日（日）13：30～16：30
- ◇就労相談もあります。お問い合わせください。
- ◇問合わせ；母子家庭等自立支援センター
TEL. 075-252-6010

ぶらっとホーム

このシリーズでは、いま、キラキラ輝いているひとを紹介しています。

二〇〇三年四月高齢者主体の生活協同組合「京都高齢者協同組合・くらしコープ」(以後「高協協」)が発足しました。

高協協は、様々な職歴を持つ五十〜八十歳代の人が集まった会員組織で、自ら出資して経営に参画し「協同労働」の考え方に基づき、経験を生かして仕事を創造し、自立と助け合いのネットワークを広げる活動を進めています。

現在会員数は約二百名。高協協の活動は高齢者の自立と助け合いのネット

ワークとして全国的に広がっており、京都での設立は各界の注目を集めています。

高協協の具体的な活動は、①ケアプランの作成など福祉事業、②安全な農産物の提供、③長寿講座の開催、④介護保険枠外の日常生活支援として、高齢者の経験や技術・知恵を生かせる働く場の提供など、

高齢者が輝く社会を目指す取り組みを展開しています。

今回の「ぶらっとホーム」には高協協の世話人の荒木昭夫さんに登場いただきました。

荒木さんの本職は劇作家、演出家です。高協協の活動として、高齢者劇団の結成を夢見ていますが、いま荒木さんを熱くする取

り組みがあります。

それは、今年夏に上演される創作劇の脚本構成・演出の仕事です。現在、この創作劇は「京都子ども舞台創造プロジェクト2004」と名付けられ、八月公演に向けて、ドラマスクールで創作・レッスン中です。

この児童劇は、一九九四年に荒木さんの脚本構成・演出で上演された「Teens age 未知の星から」に参加した子どもたちが、十年後にもう一度やりたい、との思いから実現することになりました。

「実行委員の中には、社会人となった当時の子どもたち十人が、裏方として参加してくれています。」と荒木さんは子どもたちの成長ぶりに目を細めています。

荒木さんの指導は少しユニークです。ストーリーの創作には、まず子どもたちに対立するものの絵を描いてもらい、それらの絵を繋

全ての人に演劇の素晴らしさを

京都高齢者協同組合・くらしコープ世話人

荒木 昭夫さん

いでいくことで物語をつくっていきます。そこには奇抜なアイデアや意外な展開が潜んでいます。

「劇」という字は、虎と猪と刀という字で構成されています。それらがぶつかるわけですから、劇は激しいものなんです。」との種明



荒木 昭夫 (あらかき あきお) さん

昭和6年3月31日生

劇作家 演出家

京都高齢者協同組合・くらしコープ世話人

京都児童・青少年演劇協会事務局長

主な活動歴 1974年 人形劇「猫は生きている」脚色演出

1981年 「全児演ドラマスクール」運動を開始

1994年 子どもの集団創作音楽劇

「Teens age—未知の星から」の指導・演出

主な受賞歴 1979年 厚生省 児童福祉文化財特別推薦

1988年 東京都優秀児童演劇優秀賞

京都高齢者協同組合・くらしコープ

事務所：京都市北区紫野東野町1-5 TEL/FAX：075-432-3636

京都子ども舞台創造プロジェクト2004 公演「あしたの日記」(仮題)

●期 日：2004年8月21日(土)・22日(日)

●会 場：京都こども文化会館「エンゼルハウス」

●問合せ：TEL 075(762)2060(荒木)

は 一 と ふ る 通 信 Vol. 22

精神的支えを中心においた日常生活の支援ケース

■病院に入院したことがきっかけ

Kさんは七十代の女性です。聴覚に障害のある妹と同居をしています。また、遠方に従兄弟がいますが親しい付き合いはありません。

収入は、本人の厚生年金と妹の障害年金で月三十万円程度です。Kさんは、若いころから、経済的に苦労をしてきており、妹にお金を残してやらなければという強い思いを抱いています。多額の財産があるのですが、有効な金銭の使い方ができていません。

家の中は雑然としており、家もかなり傷んでいたり、節約のためにトイレの水洗の水が止められていました。捨てられないもので家中がいつぱいになっていました。福祉サービスについても、お金がかかるからといってまったく受けていませんでした。

近所との付き合いもほとんどありませんでしたが、Fさんとだけは気が合い四十年来の付き合いがあり、日頃から食事の差し入れや日常的な金銭の管理や通帳の預かりなどをしてもらっていました。Kさんも信頼を置いているようでしたが、近所では「Fさんが財産目当てで親切にしている」などの噂がありました。

そんなある日、Kさんが倒れているのを妹が発見し、民生委員に連絡して病院に運ばれました。入院時は栄養失調でかなり衰弱しており、情緒不安定で会話がほと

んど成り立たず、歩行もできないほどでした。

その後、入院して三ヶ月が経過し病状も安定したため自宅へ戻るようになりました。

そこで、病院の看護師長より、地元社協に退院後のKさんの生活について相談が入りました。相談の結果、介護保険の申請を行うこと、日常的な金銭管理について地域福祉権利擁護事業を活用していくという方向で、本人に話をしてみたところ、「お金のことが心配だけど、ひとりでは不安なので手伝って欲しい」と言われました。

■本事業の支援で不安を解消

さっそく、介護保険の申請を行い、要介護認定で「要介護度Ⅱ」の判定がでて、ホームヘルプサービス、訪問看護サービス、デイサービスなどを受けることになりました。

金銭管理については基幹的社協の専門員が、本人宅へ訪問を重ねる中で本事業の利用をすることになりました。

支援内容としては、生活支援員が隔週一時間の支援で預金の払戻の援助、日常生活に関わる代金の支払などを行うことになりました。また、多額の通帳・印鑑の保管については銀行に本人名義の貸し金庫を借りることにしました。

しかし、隔週の支援ではすぐにお金を使ってしまう、Kさんより「お金が無い」という電話が度々入りました。そのため、支援

計画の見直しを行い、週一回の支援にすることになりました。新しい生活支援員には、以前より気にかけてくれていたFさんになっていただくことになりました。Fさんも「近所とのこともあるし、きちんとした立場で関わらせてもらうのはありがたい」ということでした。従来の支援にあわせ、信頼関係の厚いFさんに生活支援員になっていただいたことでKさんの不安も解消され、よりきめ細かい支援をすることができるようになりました。

■心をかかわらず支援の大切さ

本ケースを通じて感じることはインフォーマルな支援の大切さです。ひとりの人を支援する場合、日常生活への支援を中心に考えなければいけません。制度が導入され、それぞれの関係機関が支援を行ったとしても、それだけでは日常生活の支援をしているとは限りません。毎日の暮らしを考えた場合、精神面も含めた支援になるようにしなければなりません。そのためには、近隣との関係、とりわけ本人との人間的な関わりが強い人たちとの関係にも目を向ける必要があります。

地域で安心して生活できるようにするためには、制度にはない対応課題がたくさんあり、関係者だけでなく、周りのあたたかい日常的な精神的支えが重要なというまでもありません。

「京都の福祉」へのご意見、感想、とりあげてほしいテーマなどお寄せください。

京都府社会福祉協議会

TEL: 075-252-6291

FAX: 075-252-6310

e-mail: daihyo@kyoshakyo.or.jp